



## 私の健康法 ～体・技・心～

東日本設計株式会社／技術顧問 藤嶋正紀



### 1. はじめに

「水坤」に投稿するのは久しぶりですので、少し気恥しい気もします。私はまもなく72歳になりますが、もうすぐ後期高齢者の仲間入りする年齢になっている自分に驚いています。まだ働いているのによく聞かれますが、さすがに気力・体力の衰えを感じてきました。

しかし、私はある友人と“生涯現役”を目指す約束をしてしまっております。何が“現役か”は仕事を続けることだけとは限らず、本人および状況次第だと思っています。不器用で生活に無頓着な私は、少し酔った勢いで「幾つになってもどこことなくシュッとしている老人でありたい」と宣言したらしいのですが、記憶が定かではありません。そのため、一緒に飲むたびにどんな現役を目指すつもりだと言われ続けています。今回はそんな私の健康法を述べさせていただきます。

### 2. 身体の健康法

この年代になると健康のために何をする？と聞かれたらゴルフと答える人の割合が多いようです。中には、“エイジシュート”を目指しているという人もいます。

残念ながら、私は身体が左右対称ではなく、背骨が少し歪曲しているらしく、若い頃からの腰痛持ちです。そのため、“エイジシュート”を夢見る資格はないと決めており、年に数回楽しむ程度に止まっています。

理学療法士からは、筋肉の鎧をまとうしかないから腹筋と背筋を鍛えなさいと指導されており、現在も、私が続けている身体の健康法は、以下の二つです。

#### (1) ストレッチ・レッグレイズ・腹筋・筋トレ

時間がある限り、簡単なストレッチの後、腰が痛くならない程度にゆっくりとレッグレイズと腹筋運動を各70回以上、3kgの鉄アレイを用いて背筋を中心の筋トレを7分以上続けており、“エイジトレーニング”のつもりで自己満足しています。筋肉はウソをつかないらしいのですが、決してマッチョを目指しているつもりはなく、寝たきりになった時の床ずれはもっと辛いだろうと思い、じっとガマンを続けているところです。

#### (2) ジョギングから散歩へ

50代の頃までは、1週間に1度は5km程度のジョギングを続けておりましたが、現在は体力が低下したため、整体のための散歩に切り替えています。

私の住んでいる団地は結構アップダウンが多いのですが、その時の気分でコースを変えて1時間で5kmほど歩いています。途中、近くの公園にある約110段の石段を上がると少し遠くに只今建設中のボールパークの大屋根とクレーン群が見えてきます。どうやら“ビッグボス”と呼ばれたスターがチームを率いることになったようです。果たして結果がどうなるか、楽しみではあります。

写真－1は建設中のボールパークの遠景です。(ただし、市内別地点から撮影)

最近ではコロナ禍にもめげず、犬を連れて散歩する人が非常に多くなってきました。私は、帽子とマスクを着用して散歩することが多く、少しキョロキョロしていると変な人と勘違いされてしまうため、ある程度心拍数が上がるようにサッサッと歩くことにしています。

私自身は、将来の徘徊老人にならないように、今のうちに歩き回っておこうと考えているところです。

ただし、冬季間は散歩が出来ないため、こまめな除雪で身体を動かすことを心がけております。が、ドカ雪の時はさすがにきつく、腰には最も悪く、大変です。



写真－1 建設中のボールパーク

### 3. 技術・知識の健康法

私は65歳まで道内他社で主に下水道の仕事に従事していました。退職後、現在の会社では主に水道の仕事を手伝っています。以前から研究会やNPO等で上下水道に限らず他分野の方たちとも交流を続けておりましたが、幸いなことに、職場が変わった現在も続けさせていただいております。

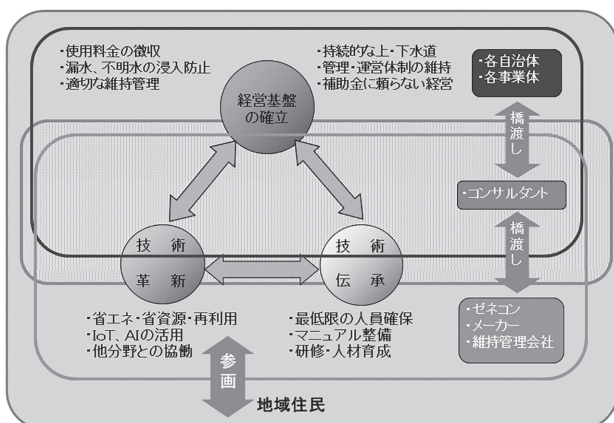
上下水道を含め、多くの社会インフラは、“建設、維持管理”の時代を経て現在は“経営”の時代へと移行しつつあります。私たちの年代は、そういった時代の移り変わりを目の当たりにして来ておりますが、次第に希少種になっていくものと思います。

現在、上下水道の経営改善のために広域連携や上下水道一体化・一体的経営の必要性が求められていますが、これまでの経緯を振り返ると、水道は下水道よりも20年程建設時期が先行したため、そのまま施設更新時期がズレてしまっており、ハードの一体化はなかなか実現し難いように思います。

今後、加速する人口減少と大都市への過度な集中が続く中、上下水道の経営が悪化する事業体が増大することが予想されます。加えて、現在のコロナ禍またはコロナ後の社会の動向を考えると、あらゆることが一気に「新しい生活様式」への対応を求められ、地球環境的制約が高まる中、従来の縦割りの考え方で上下水道の経営を持続できるのか懸念をしております。

特に、小規模都市・事業体については、“水道なら水道、下水道なら下水道だけという枠組みからはみ出して他分野との協働と地域づくりを前提に一体化を考え直す、行政もそれを受け入れる”といった柔軟な対応が必要ではないかと思っております。

これからも他分野の方たちと交流し、若い職員とも意見を述べ合えることが、私のボケ防止の秘訣であり、彼らの仕事の邪魔にならないことが持続するポイントと心掛けています。



図ー1 これからの上下水道イメージ

### 4. 心の健康法

私にも孫がおりまして、日々の成長に驚かされているところです。5、6年前になりますか、孫の気を引こうと絵本を読んであげたことがあります。受けが良かったため、ついその気になって紙芝居を思い付き、作成しようとしたのは良かったのですが、仕事柄、“うんこ”や“水”に関することしか思いつきません。やっとの思いで作成し、孫に読み聞かせたのですが、直ぐに横を向かれてしまい、がっかりした経験があります。

このまま諦めるのも悔しいので、紙芝居の改良を重ねてGKP北海道で採用してもらい、札幌チカホイベントに出演させていただいたこともありました。イベントに来てくれる子供たちやお母さんたちにも受けるために紙芝居からスライドショーに変更したり、テーマに“温暖化”や“災害”を加えてみたり、クイズ形式に仕上げてみたりするようになってきました。



図ー2 作成したスライドの一部抜粋

残念ながら、今回の世界的パンデミックによりイベントは2年ほど中止となってしまいました。このままでは寂しいのでテーマを“コロナ”に方向転換し、当社職員の注意を喚起することとしました。感染状況に応じて話題を設定し、これまで3回シリーズでスライドを作成し、社内公開・掲示させて頂きました。

このように、身の回りのちょっとした事から興味が広がり、そのために様々な資料のリサーチと物語を創造するエネルギーが必要となりましたが、自分の守備範囲を広げることが出来ました。それが余り苦にならなかったのは、私にまだ好奇心が残っていたからだと思っています。おかげで認知症予防の訓練ができました。今後も引き続き訓練を重ねていくことができれば、心の健康を維持することに繋がるものと考えているところです。

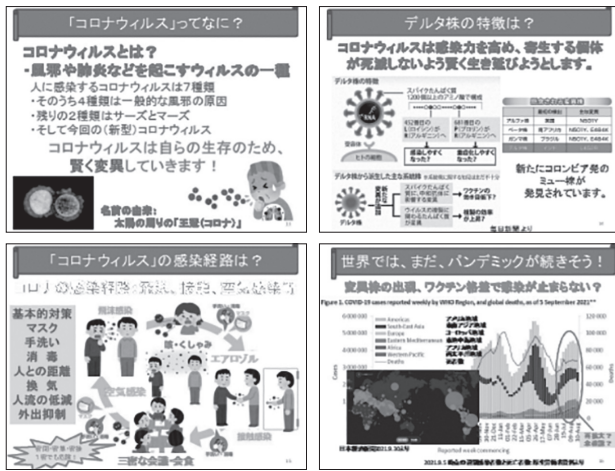


図-3 作成したスライドで職員の注意を喚起

## 5. おわりに

私のささやかな健康法を述べさせていただきました。少子高齢化時代がやってきて、私の周りにも90歳を軽く超えている人が多くなってきました。そうすると、私にも後20年、2040年頃まで生存している可能性がある訳です。その頃には、世界は地球温暖化を防止することが出来ているか、シンギュラリティが近づき人々の生活様式や産業構造がどう変わっているだろうか、考えだしたら少しワクワクしてきます。これからは、もっと楽しく、周囲に余り迷惑をかけず、出来れば地球と社会に貢献することを見つねながら過ごしたい。そのためには、ちょいメタでもちょい悪でもなく、シュツとした生活を送れる体・技・心が重要と考えているところです。

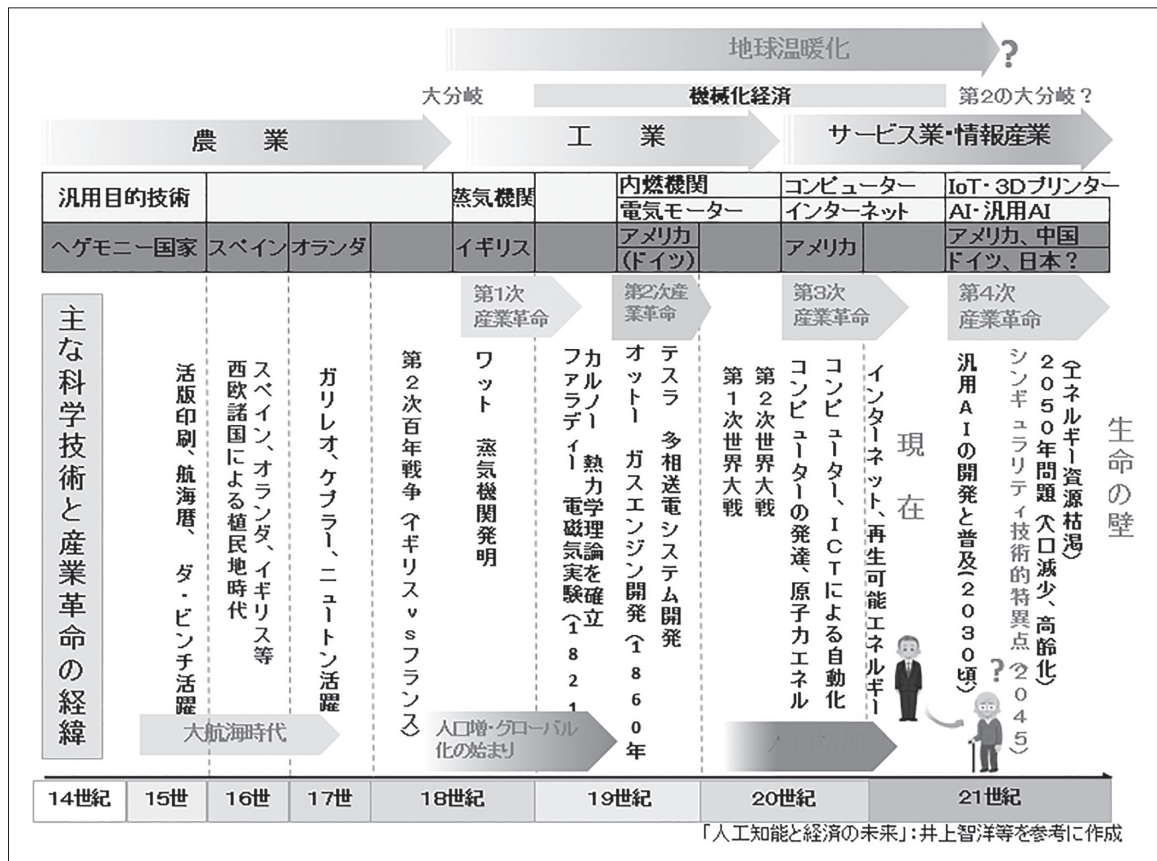


図-4 これから20年先はどうなる---



## 私の趣味

株式会社復建技術コンサルタント／営業部／仙台支店 高田翔太



### 1. はじめに

復建技術コンサルタントの高田翔太と申します。入社6年目で宮城県内の営業を担当しています。上司、先輩からご指導受けながら日々走り回っています。

私の父親は、考えるよりもまず体が動いてしまう行動力の塊のような人間でした。私自身の幼少期は比較的内気な性格でしたが、そんな父親の影響で様々な経験をしてきました。その中には半ば強制的に連れていかれたようなものもあり、全然気が進まなかったことを覚えています。しかし、大人になった今思い返すとどれも貴重な経験だったと感じており、趣味を広げるきっかけを作ってくれました。様々なことにチャレンジ出来るようになったので、父親には感謝しています。

今回は、いまだに続けているもの、すぐに辞めてしまったもの様々ですが、私の趣味について紹介させていただきます。



写真－1 父と私

### 2. 父と行った海と山

父親は飲み屋のマスターの傍らで、スキーとスキューバダイビングのインストラクター免許を持つ異様な略歴の持ち主です。私も小さいころからどちらも経験し、毎年その時期には泊りがけで行く恒例行事でした。

まずスキーですが、小さな子供が満足に滑ることなど出来るはずもなく、毎回身も心もボロボロになっていました。毎回行くときはウキウキですが、帰り道は死んだ



写真－2 スキーに挑戦

ような目をしていたと聞かされたこともあります。小学6年生くらいまでは続けていたのでそれなりに滑れるようになりました。その後はしばらくスキーはやっておりませんでしたが、大学生の頃に華のキャンパスライフを夢見た私はスノーボードに手を出しました。手をかけてスキーを教えてくれた父を裏切るような罪悪感はありませんが、当時はモテたい気持ちのほうが強かったです。なけなしのバイト代で用具を揃え、意気揚々とゲレンデへ繰り出しましたがあまりの難しさに見事撃沈。私が想像した華やかさのかけらもなく、全身傷だらけの初体験でした。幼少期にスキーを始めた頃のフラッシュバックし心を折られてしまった私がスノーボードに行ったのはそれっきりでした。今でも用具は捨てずに持っており、やりたい気持ちはありますが怪我が怖く行っておりません。

次にスキューバダイビングですが、私にはやる上で致命的な欠点がありました。それは虫や魚が見るのも怖い、触るなんてもってのほかというほどに苦手だったことです。砂浜でのんびり海水浴を楽しむ分には問題ありませんが、海藻が漂い、魚が泳ぐ海中には恐怖心しかありませんでした。あまりの拒否反応に父親も諦めたのか、海に潜るのは姉の担当になりました。今では釣りが趣味にもなっているため魚は全く問題ありませんが、虫嫌いはいまのところ全くと言っていいほど克服できておりません。

### 3. キャンプは好きだけど

小さなころから経験したもので、今でも趣味として続いているなかにキャンプがあります。夏に家族で海に行くときは必ずキャンプでしたし、それ以外でも季節を問わず行っていました。高田家のイベントの中で一番好きでしたし、それをわかっていた父もたくさん連れて行ってくれていました。今ではお買い得な道具を買い漁り休みの日に県内のキャンプ場へ行くのが至福のひと時になっています。体力の続く限り走り回って遊びつくすことから、焚火を眺めながらお酒を飲むことに楽しみはシフトしましたが、アウトドア好きは昔から変わっておりません。しかし、先ほども述べた通り虫嫌いも変わっておりません。キャンプ場に虫は付きもので、夜にランタンをつけていると虫が大量に寄ってきます。都会では絶対に見ないような大きさのものが襲い掛かってきます。私にとってキャンプの唯一の欠点がそれなので、虫対策は誰よりも力を注いでいます。蚊帳付きのタープを使ったり、虫よけ松明を焚くなどして何とか凌いでいます。どうしてそこまでしてキャンプに行くのかと思われることもよくありますが、自分でもよくわかっていません。キャンプの何が好きなのかと言われても明確にこれといった答えはなく、ただ漠然と好きという気持ちです。昔からアウトドアに触れていたことと、親からの遺伝だろうと思っています。遠い未来かもしれませんが、自分に子供ができたならキャンプは必ず連れて行こうと決めています。



写真－3 家族でキャンプへ

### 4. 社会人になって

大学を卒業し、今の会社に入ってから6年弱が経過しました。どうしても学生の頃よりも自由に使える時間が少なくなってしまうますが、その分休みを有効利用しようとして計画的に行動するようになりました。入社前はやめてしまう趣味が多いだろうなと思っていましたがそんなことは無く、むしろ多少お金はかかってもいろんなこと



写真－4 会社の野球部

に挑戦したいという思いが強くなりました。

大人の趣味の代表的なものといえるゴルフも会社に入ってからすぐに始めました。最初は付き合い半分の興味本位で、続かなくてもいいからとりあえずやってみようという気持ちでしたが、すっかりハマりつづけています。まだまだ下手くそで、周りに迷惑をかけながらですが、私なりにゆったりと頑張っています。頻繁に練習に行けているわけではありませんが、会社の上司や同僚、父親などと年に数回は回っています。大人の趣味なだけあって、あまり回数が多いとお財布が寂しくなってしまうので、適度に続けていけたらと思っています。

私の会社には様々なクラブ活動が存在しており、未経験者でも気軽に参加ができます。ゴルフ、野球、バドミントン、マラソン、釣り、麻雀、登山など他にも多数あり、そのほとんどに参加させてもらっています。野球やバドミントンなどの未経験のスポーツは、学校の体育の授業くらいでしかやる機会もなかったもので、とても新鮮な気持ちで楽しいです。体を動かすのが元々好きですし、好奇心は旺盛な方なので、そのような環境があることは会社の良いところだと思っています。年齢を問わず、普段関わりの少ない社員とのコミュニケーションの場にもなるので、そういった点でも引き続き参加していきたいです。

### 5. もはや生活の一部に

様々な趣味について書いてきましたが、これまでの人生で最も多くの時間を費やしてきたのがサッカーです。小学校入学と同時に地元のサッカークラブに入り、中学、高校までサッカー一筋でした。大学からはフットサルという屋内のサッカーよりも小さいコートでやる競技をはじめ、現在も社会人チームに所属し週2回程度活動しています。始めたきっかけは覚えていませんが、ここまで本気で取り組むとは親も思っていなかったかもしれません。思い返すと、一定期間以上サッカーをしていなかった



写真－5 サッカー（小学6年生）

たのは高校や大学の受験時期くらいでした。私にとってサッカーは趣味というよりは生活の欠かせない一部になっているように思います。現在28歳で年歴は20年以上になりますが、飽きたり辞めたくなくなったりすることは一度もありませんでした。これまでもそのつもりですが、残念なことに徐々に身体的に衰えを感じ始めてしまっているのいつか限界は来てしまうのかと思うと非常に悲しいです。体が動き続く限りは生涯現役の気持ちで続けていきます。



写真－6 フットサル（大学4年生）

## 6. おわりに

父親の影響や会社のクラブのおかげでたくさんの趣味が出来て、非常に充実した日々を過ごすことはできていますが、私の知らない世界はまだまだ無数にあります。今後も好奇心旺盛に挑戦していきたいと思っています。

張り切りすぎて週明けの仕事に支障が出てしまうこともごく稀にありますが、上司が見て見ぬふりをしてくれることを祈ります。趣味と仕事を上手に両立し、自分のワークライフバランスを高めることで、より一層会社、社会に貢献できるよう努めてまいります。



# 「下水道展'21 大阪」に出展しました

株式会社日水コン／コンサルティング本部／  
下水道事業部西部計画管路部／部長

福沢敬三



## 1. はじめに

これまでの人生の半分以上、日水コンで仕事をしております。2019年の横浜下水道展に引き続き、下水道展2021大阪の当社ブースの準備、運営をおこないました。

この度、このような執筆の機会をいただきましたので、大阪で開催された下水道展で経験したこと、思ったことを紹介させていただきます。

## 2. コロナ禍で下水道展

2021年8月17日～8月20日の4日間インテックス大阪で下水道展が開催され、日水コンも出展致しました。期間中の大阪府は、緊急事態宣言下であり、全国知事会からは、都道府県をまたぐ旅行や、移動の原則中止が延期を呼びかけられる中での開催となりました。

下水道展は、展示会であると同時に、下水道研究発表会や各種報告会など多くのイベントが開催され、多くの下水道業界関係者が集まり、賑やかなお祭りごとの側面もあります。しかし、これまでとは違うことは、感染症予防のため、展示会であるにもかかわらず、多くの人々が集まり密になることを避けなければならない矛盾を含んでおりました。

いくつかの企業が出展を取りやめたり、規模縮小を余儀なくされる中、当社ブースには多くの来場者に来ていただきました。この場を借りて感謝申し上げます。下水道展全体の4日間の来場者数は約13千人で、前回2019年

横浜開催の約4分の1になりました。当社ブースの来場者のうち約6割が大阪府内から、7割が近畿圏内からの来場であり、遠方からの来場は難しい環境でした。

## 3. 日水コンの展示内容

今回の下水道展は、現地来場者の伸び悩みが予想されたため、場所を選ばず参加できるZoomを利用したオンライン相談室を開催しました。大阪に集まることなく、対話のコミュニケーションができる機会を作ることができました。当社職員も北海道から九州まで全国の職員がオンライン上から対応いたしました。オンラインからの来場や多くの来場者にご利用いただき、新たな取り組みに、お褒めの声をいただきました。

また、多くの来場者が集まり密になることが良しとされない中で、技術紹介プレゼンテーションは開催しないこととし、プレゼンを動画化し、Web公開にしました。動画にすることによって、場所と時間を選ばず、PCやスマートフォンからも閲覧することができ、今まで以上の多くの人に視聴いただける機会を提供できます。閲覧回数も赤裸々に記録されます。

当社Webサイトでは、24技術のパネル展示を含みリアル会場の展示物と同様の内容を掲載し、プレゼン動画も視聴できるようにして、遠方の方への配慮を致しました。



写真-1 ブースの外観



写真-2 オンライン相談室の様子

サイトは、現在も閲覧可能となっておりますので、どうぞ、ご利用ください。

<http://www.nissuicon.co.jp/event/2021geten/>

コロナ禍での逆風を利用して、アイデアや工夫で乗り越え、新たな展示会の在り方や表現方法を模索することができました。

20年ほど前は、インターネット上で文章や写真を公開することによって、本を出版するほどの発信力があると思いましたが、今や、動画を使って効果的に伝えるテクニックを得ることができれば、誰でも放送局並みの伝達力、影響力を手にすることができます。YouTubeやTikTokなどの動画視聴、発信が一般化する中で、我々コンサルタントの表現方法も紙の上の文字から抜け出す必要に迫られる時が来るかもしれません。見やすい動画とは？うまく伝える動画とは？などのテクニックを習得する必要があると思いました。

#### 4. テーマは、「楽しい」の発見！

2019年横浜の下水道展では、既成概念を打ち破って、壁を越えたい！これら行動に向けて思考するアート下水道を提唱し、女子美術大学と共同し、互いを学びながら、循環をテーマにさまざまな作品を制作していただきました。特に、汚泥で染めた白衣は、2020年国土交通大臣賞循環のみち下水道賞の広報・教育部門で賞をいただきました。これに続く大阪下水道展では、どのように調理して、どのようなテーマにするか試行錯誤を繰り返しました。

出展ブースのキャッチコピーは、「楽しい」の発見！としました。コロナ禍で制限された生活の中で、苦しかったこと、楽しかったことがあったはずです。私は、水コンサルタントの使命は、水インフラを通じて地域、社会に貢献すること。と思っています。コンサルタントの仕事の先には、人々の「楽しい」があるはずです。人々の



写真-3 参加型イベントの水槽



写真-4 紙が溶けて文字が浮かんでいる様子

「楽しい」を考えることで、我々がやらなくてはいけないヒント、新たな発見を見つけることができるかもしれません。

そこで、ここ最近のコロナ禍で「楽しかったこと、苦しかったこと」を文字で集めることを考えました。職員に限らず外部の方にも協力いただき、多くの方に参加していただきました。

水に溶ける紙に、油性ペンで手書きして、水に浮かべると、紙が溶けて文字だけ水面に残り、ゆらゆら漂います。何枚もの紙を溶かすことによって、言葉は重なり合い、楽しいも苦しいも混ざり合い、他の人の言葉も重なりながら、思わぬ偶然も起きたりします。これらすべてを水が受け止めてくれます。

このデジタル時代に、メールやTwitter、SNSで集めるのではなく、あえて手書きであることも温かみのある、なんとも情緒的な気持ちにさせてくれるものになりました。

下水道展会場でも、大きな水槽を用意して、来場者の皆さんに思いを記入してもらい、紙を溶かす参加型のイベントとして実施しました。印象的だったのが、小学校低学年の女の子が、溶ける様子が面白かったのか、母親にとがめられても、ずっと長い時間、浮かぶ文字を眺めていました。

参加を促すために、水に溶ける様子を事前に動画で撮影し、現地でモニターに投影しました。Webサイトでも紙が溶ける様子など閲覧することができます。どうぞご覧ください。

<https://youtu.be/sSBNDPHKIKg>

多くの方を書いていただいた言葉は、写真と文字情報として残しています。集まった言葉には、みんなが思う欲求が詰まっていると思います。何かに利用できないか思案中であります。

## 5. コンサルタントがアピールするもの

下水道展でコンサルタント以外の他社は、売るべき実機、商品を表示していることが多いです。独自の高度な技術や工夫が凝縮された実機商品は、目を引き、アピール力があります。

コンサルタントは、来場者に何をアピールするのか？ 成果品の図書を展示するのか？ 我々コンサルタントも、展示すべき高度な技術、商品、アイデアを持っていますし、アピールするべきです。しかし、それは物として表現しにくい、物理的な物ではありません。

我々コンサルタントは、流れ作業で同じものを作り続けてきたわけじゃありません。長年、顧客に寄り添って、試行錯誤しながら、受注した業務の一つ一つの課題に対して悩み、工夫し、解決しながら社会貢献してきました。コンサルタントが保有している経営資源は、人に宿っている技術、長年積み重ねた知識・経験・ノウハウです。

すなわち、人が生産工場であり、人が商品だと思っています。故に、人的なパワー、組織的な問題解決能力、課題提案力をアピールしたい。人的な経営資源をブース全体で表現したい。と考えました。これまで培ってきた技術が宿る『人』に焦点をあてました。パネルには、技術情報といっしょに職員の写真とキャッチフレーズを載せています。

コンサルタントにおける「楽しい」とは何か。今後、指針やマニュアルだけでは通用しない、過渡期を迎えた下水道事業に対して、複雑化した社会課題の解決には、苦しい場面にも遭遇することでしょう。しかし、その苦しさを乗り越えた先には地域や社会に貢献できた、という達成感として「楽しい」があるはずです。そのように考え、ブースの壁にも「楽しい」の象徴として、日水コン職員の“笑顔”をちりばめました。まず、我々が笑って



写真-5 展示パネルの外観

みる。ことから始めてみました。

## 6. おわりに

来場者の皆さんに、どのように映ったかわかりませんが、ブースを見るだけでは、何の会社かわからなかったかもしれません。事実、通りすがりの方に、何の会社ですか？と質問されました。

下水道業界や水コンサルタントを魅力的に伝えることは、下水道という社会インフラを支えることになる。なくてはならないものを下支えする我々の業界を、もう少し自信をもって、大きな声で存在をアピールしてもいいんじゃないか。

地域や社会に貢献するとは、目の前の顧客に喜んでもらえることだけでなく、その先にいるユーザー住民に喜んでもらえることだと思います。地域の楽しいを発見することは、我々の楽しいに繋がっていくと思う。



写真-6 ブースの様子



# この時代だからこそ考えること

香川県／高松市／朝日設計株式会社／業務部 秋山瑞葉



## 1. はじめに

### 【初めに】

朝日設計㈱に入社して十二年の秋山と申します。コロナ禍が収まらぬ昨今、考える事があります。それは人間関係の希薄さです。ステイホームは無論、黙食やマスクの必着など、厄介なウイルスのせいで人間同士が薄くなっています。ここではコロナが起こる事など考えてもみなかった頃のエピソードを、二つ紹介します。

### 【あなたと私で創った本】

中学生の頃、私は人と接する事が苦手だった。入学後すぐに受けた、同級生からの嫌がらせが原因だと思う。いつも猫背で俯いたまま、学校生活を送っていた。目を逸らさずに対峙できるのは、図書館で借りたたくさんの本達だけだった。

思春期の真っ只中を本の虫として過ごした私は、次第に頭の中で物語を創造するようになった。積み重なった大好きな作家の本を前に、私も小説を書きたいと思い立った。

書き物の楽しさにすぐに虜になった。家に帰ってからや休み時間だけでは飽き足らず、授業中にまで筆を走らせるようになった。特に地理の授業は恰好の文筆タイムだった。地理は教室移動となり、校舎の別棟で行われていた。その際私は教室の一番後ろの席だったので、滅多なことでは先生の目につかなかったのだ。B5サイズの白い紙を半分に折り、左手で隠すようにして物語を紡いだ。

ある日の放課後、小説の束を整理していると、冒頭の数枚が抜けていることに気付いた。そういえば今日、別事に熱中しているのを地理の先生に気付かれそうになり、小説を机の中に隠したのだ。慌てて別棟へと走った。地理教室の机は古く埃まみれなので、その中に教科書を入れる生徒はいなかったが、気が気ではなかった。物語の主人公は、明るく人気者な女の子。卑屈で孤独な私が自分と正反対のキャラクターを妄想しているなんて、誰かに知られでもしたら、と。

幸い机の中に紙はあった。しかしその上に、ノートを小さく千切ったメモが重なっていた。

『面白いです。続きが読みたいです』

暮れ始めた夕方の教室で、目を凝らすとそう書かれていた。頬が熱くなった。自分の憧れを小説に投影していることを知られたからではなく、嬉しかったのだ。誰かが私の小説を読み、そしてそれを面白いと言ってくれた。高鳴る胸に鞆を抱えて、急ぎ足で家に帰った。

二つ折にした小説の紙の背を、糊で張り合わせる。どんどん物語を書く。それをまた張り合わせて繋げていく。不恰好なうえに、薄く小さいけれど一冊の本が完成した。表紙に、胸に秘めていたペンネームを書き入れるともう堪らなくなって、それを抱き締めた。自分の書いた物語が一冊の本になった。そしてそれを誰かに読んでもらえるのだ。

翌日の地理の授業で、手造りの本を机の奥にそっと押し込んだ。早鐘を打つ心臓をなだめながら、これじゃまるでラブレターみたいだと思った。次の地理の授業まで待ちきれず、その日の放課後に地理教室へ向った。あった、本の上に重なったメモ。

「楽しかった。続きを楽しみにしています」

その日から私の生活は文筆一色になった。

手造りの本の厚みが増えるごとに、大切に仕舞うノートのメモも増えていった。見知らぬその人は毎回感想をくれたが、例えば名前だとかこのクラスだとか自分の事は一切記さなかった。そんな折、ある日のメモにこんな事が書かれていた。

『絵を描くことが好きなので、あなたの小説に挿絵を描いてもいいですか』

私は心を躍らせ、もちろんですと返事をした。その次の地理の授業で、モノクロだった本は色鉛筆で鮮やかに彩られていた。はがき程のサイズの本なので、挿絵も小さいものだったが、存在感は絶大だった。人格を窺わせるような、明るく柔らかなタッチの絵。あなたの絵、素敵ですと伝えたと、あなたの小説の方が素敵ですと返って来た。いつしか小説を書くことと同じ位に、その人との交流が心の支えとなっていた。

高校入試を終えるとあっという間に卒業が迫っていた。最後の地理の授業で、私はいつもと同じ様に本を机の奥に置いた。前の日の深夜まで筆を走らせたが、結末



までは辿り付けなかった。その侘びと、今までの感謝と、一つのお願いをメモに記して、返事を待った。

『これはあなたと私で創った本です。表紙に連名で名前を書きたいので、教えてください』

卒業式を終え、小走りで向った地理教室の奥の席。机の中に本があって安心したけれど、その上に重ねた私のメモもそのままだった。生徒たちが騒いでいる校庭とは反対に、ひっそりと静まった地理教室の隅で、本を抱えて泣いた。返事が無かった事よりも、感謝が伝えられなかった事よりも、もうこの本を通してあの人と交流できないのだと思うと涙が止まらなかった。

大人になった今も、私は相変わらず本の虫だけれど、人と話をするのも同じくらい好きだ。相手が考えている事を知り、自分が考えている事を伝える。その喜びを、楽しさを、手造りの本を通じて、名も知らぬあの人との交流の中で知ったからだ。

薄く小さな本は、未完成のまま大好きな作家の小説の隣で眠っている。続きを書いてみようかな、鮮やかな挿絵を指でなぞりながら、そう思った。

### 【エクボちゃん】

子どもの頃、私の兄は体が弱く入退院を繰り返していた。しかし読書家で博識な兄は、よく私の宿題を見たり絵本を読んでもくれたりした。立派なサラリーマンになって、家族を温泉旅行に連れて行くのが夢だといつも話していた。学校も休みがちな兄が夢を語るとき、両親は耐え切れず目を赤くした。私は幼心にも、涙する両親の気持ちを理解してしまい、兄の看病で忙しそうな両親に、甘えたいなどと口が裂けても言えないのだった。

そんな私を気にかけてくれたのが、兄が入院する病棟の看護師さんだった。笑うと両頬にくっきり現れるエクボがチャーミングだったので、私は彼女をエクボちゃんと呼んで慕った。ランドセルを背負ったまま病室へ通う私に、エクボちゃんが飴をくれる事もあった。

日差しの照りつける夏休みに入っても、兄の肌は白い

ままだった。兄と機械を繋ぐ管は日に日に増えていく様に見えた。外で元気に遊ぶ子どもの声が聞こえると、急に黙り込んでしまうことも増えた。そんなある日の病室で、兄と見ていたテレビにかぶと虫が映った。

かっこいいなあ。食い入るようにテレビを見つめて兄はそう呟いた。ギネスに登録されているかぶと虫って、こんなに大きいんだよ、と説明してみせる兄の、やせ細った腕が痛々しかった。居ても立っても居られず私は病室を飛び出し、いったん家へ帰り虫取り網と虫かごを装備し、猛然と林へ向った。

絶対にかぶと虫を獲ってやる、と胸に決めずんずん進んだ。兄が喜ぶ顔を想像すると嬉しくなり、疲れを知らず歩き続けた。

しかし何時間歩いてもかぶと虫は影さえ見せなかった。帰ろうかな、と思った頃には帰り道が心もとない。やっとの事で病院に辿りついた頃には、日がどっぴり暮れていた。

「どこに行ってたんだ。みんなに心配かけて」

気が気じゃない様子で病院の入り口にいた両親に、こっぴどく叱られた。今思えばそれほど私の安否を懸念していたのだろうけれど、普段はお兄ちゃんの心配ばかりしているくせに、と卑屈な気持ちが邪魔をし素直に謝れなかった。そんな切ない気持ちも相まって、病室の近くで待っていてくれたエクボちゃんの姿を見つけた途端、盛大に泣いた。

エクボちゃんは私の掌を優しく握り、兄の病室へと連れて行ってくれた。いつもなら横になっている兄は、青白い顔をしてベッドに腰掛けている。僕がかぶと虫かっこいいなんて言ったせいだね、などと兄が声を詰まらせながら謝るので、また涙が溢れてくる。

「ちょっと待っててね」

エクボちゃんはそう声を掛けると、兄妹揃ってしくしくと涙に濡れる病室を出た。数分後、ただいまあと額に汗を光らせ帰ってきたエクボちゃんの手には、コンビニの袋。中にはたくさんの折り紙が入っている。

エクボちゃんは茶色の折り紙ばかりを抜き出すと、童謡を口ずさみながらあっという間にかぶと虫を折った。私達が歓声をあげると、得意げに笑って次の折り紙に取り掛かる。たった数分の間にできたたくさんのかぶと虫を、彼女は兄のベッドの柵に飾った。そして、かぶと虫だけじゃかわいそうだね、と今度は黄色の折り紙でひまわりを作り、同様に飾りつけた。エクボちゃんは魔法のように、無機質なベッドの柵を兄が憧れた夏に変えてくれた。

病室を出たあとエクボちゃんにお礼を言うと、彼女は笑って首を振った。

「かぶと虫は居なかったけど、気持ちはお兄ちゃんに充分伝わったはずだよ」

「でも、お医者さんやエクボちゃんが頑張ってくれてい

るのに、私も何かしたいよ」

「じゃあ今まで通りたくさんお兄ちゃんに会いにきて、たくさん笑顔を見せて。そしたら病気なんかすぐに遠くに逃げちゃうよ」

エクボちゃんの言った通り、私は足繁く兄の元に通った。そして医師や看護師の方の懸命な治療のお陰で、兄は新学期が始まる前に退院することができた。たまたま病院のお世話になることもあったが、それ以来目立った病気もしていない。

そして今兄は、夢を叶えて第一志望の会社に就職し、昨年末には家族皆を温泉旅行に連れて行ってくれた。初恋はエクボちゃんだと酒に酔った勢いで告白したのもその夜の話だ。

兄の退院の日、エクボちゃんが掛けて下さった言葉を、今でも私は心の糧にしている。

「たくさんの笑顔をありがとう。あなたの笑顔に、お兄ちゃんやご両親はもちろん、私もいっぱい助けられていたんだよ」

それ以来、私は悲しい事や辛い事が起きても、笑顔で居ることを心がけている。あの夏エクボちゃんのエクボが、私の寂しかった心を慰め勇気付けてくれたように。



私の笑顔も誰かの心を癒せますように、と願いながら。

今、私の頬にエクボはないが、くっきりとした笑い皺が刻まれている。

## 2. おわりに

社会的に心理的にも、人間は一人は生きていけません。今だからこそ、物理的に離れていても心は寄り添ってたいです。そしていつか、アクリル板やマスクの必要のない世界を切に願います。



## 1. はじめに

株式会社 太平設計の津野裕宣と申します。大学卒業後、建設コンサルタント業界に就職しました。

平成18年に現在の会社に転職し、今年で15年目になります。これまで水道設計の技術者として22年従事してきましたが、昨年4月に営業部に転属となりました。心機一転、営業部員として新たなスタートと意気込んでいたところ、新型コロナの影響で大変なスタートとなりました。通常の営業活動が制限される中、マスク着用では、なかなか顔と名前を覚えて頂くことも覚えることも難しく大変ではありますが、技術職とは違ったやりがいも感じ、日々奮闘しております。私の話はここまでにしておきまして、今回、会員寄稿の執筆依頼を頂きましたので、私が仕事と同じくらい真剣に取り組んでいる趣味について紹介させていただきます。私の趣味、それはモータースポーツ（ラリー）です。よくテレビの決定的瞬間で崖から落ちていく車……そう、まさにその落ちていくラリーです。



写真-1 スペシャルステージ走行中

## 2. ラリーとは

### 1) ラリー

サーキットレースとは違って一般公道を使って最速を競い合うモータースポーツです。マラソン競技が一般公道を封鎖して開催されるのと同じように、ラリーもあら

かじめ安全管理者や道路管理者に許可を取った林道などを舞台にして開催されます。また、サーキットレースのように一斉にスタートし競争するのではなく、いくつかの競技区間（スペシャルステージ＝SS）を1台ずつタイムアタックし、その積算タイムで勝敗を争います。SSの路面状況は、舗装路（ターマック）、未舗装路（グラベル）、地区によっては雪道や氷上を走行します。サーキット走行を行うレースと違い、ドライバー／コ・ドライバーの2名乗車で走行します。「レッキ」と呼ばれる事前試走を各SSあたり2回ずつ行い、直線の長さやコーナー半径などのコース形状や特徴を示す「ペースノート」を作成します。本番の走行では、コ・ドライバーの読み上げるペースノートを頼りにフルアクセルでタイムアタックを行います。

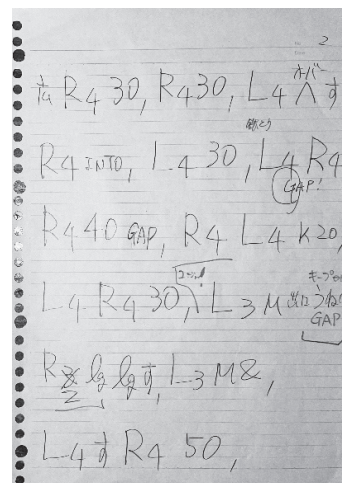


写真-2 ペースノート

競技中の走行総距離は、100km～200km程度、スペシャルステージ（SS）距離は、40km前後走行します。参加車輛のクラス分けは、排気量や駆動方式によって分けられ、車の改造範囲や安全基準は、細かく決められています。なお、国内ラリーに出場するためには、JAF（日本自動車連盟）の競技ライセンス（国内B級）が必要です。全国各地（北海道、東日本、中部・近畿、中国・四国、九州）で地方選手権が行われており、トップカテゴリーとして全日本ラリー選手権が開催されています。

また、各地方選手権、及び全日本選手権は、年間数戦

開催されていて、それぞれのラリーではクラスの順位によりポイントが与えられ、そのポイントの年間ポイント合計数でシリーズチャンピオンが決定されます。私は現在、地方選手権（九州ラリー選手権）に参戦しております。私の参戦している九州ラリー選手権の開催は、九州地方で3月から11月にかけて7戦程度あり、開催日は、土曜日と日曜日の2日間を使い行われます。2021年の九州ラリー選手権では、RH-1クラス、シリーズチャンピオンを獲得できました！

日本では、サーキット走行のF1などのメジャーなモータースポーツではありませんが2017年よりトヨタが世界選手権に再び参戦した事や、世界選手権（WRC）の日本開催決定でメディアやラリーを題材にした映画をきっかけに少しずつファンを増やしています。



写真-3 スペシャルステージスタート前

## 2) 出場している競技車両について

公道を使用する競技の為、皆さんが乗っている車輛と同じ車検を受けたナンバー付の車です。

ただし、クラッシュや転倒の可能性もあり、万一の際に人命に直結する為、室内に張り巡らされたロールゲージ（写真-4）という安全装備を装着しています。ロールゲージは、ルール上必須で、強度や素材、取り付け方法にいたるまで細かく規定で定められています。また火災がおきた際に対応できるように、消火器も車載することが義務付けられています。

体を固定するためにバケットシートと言う体をホールドしてくれるリクライニングしないシートに交換しています。あとはシートベルト、皆さんの乗られている車は3点式シートベルトですが、競技車両には4点式や6点式シートベルトを装着しています。運転時に体を固定するのはもちろんクラッシュや横転時に身を守ってくれる大事な装備です。またドライバー、コ・ドライバーの競技参加者の格好は、レーシングスーツ、ヘルメット、シューズ、ドライバーはグローブを装着し走行します。気分は完全レーシングドライバーです。



写真-4 安全装備（ロールゲージ）

## 3. 始めたきっかけ

高校時代からバイクのレースには興味はありましたがバイク買って乗りたいなあ程度で、まして車には全く興味なし。しかし、大学時代にちょっとしたきっかけで自動車部に入部しました。入部直後、大分県で開催された全日本ラリー選手権にオフィシャル手伝いとして競技に携わる機会がありました。初めて間近で聞く競技車両のエンジン音、フルスピードで駆け抜ける車の動きに感動して、ラリーをやってみたいと思い、その後、部活の先輩より競技車両を譲っていただいたのが最初の一步でした。

## 4. 競技の魅力

私の感じているラリーの魅力は、非日常を感じられる事です。レーシングスーツ、レーシンググローブ、シューズを装着し、ヘルメットを被り、6点式のシートベルトを締め、クローズドされたコース（林道）を全開でタイムトライアルする何とも言えない緊張感、更には恐怖感がたまりません。

スタート前のスタートシグナルが点滅する緊張感は、毎回、心臓がバクバクします。

滑りそうな路面、クラッシュや道路からコースアウトしたらと思うと… まさしく崖から落ちていく恐怖感、これも毎度のように私を襲ってきます。しかし、争っている選手に負けたくないという気持ちが恐怖感に打ち勝ち、アクセルを強く踏み込むことができます。

心の隅の恐怖感が消えることはありませんが…。

また、ラリーはドライバーとコ・ドライバーの2人だけの競技ではありません。競技中の決められた時間に決められた場所で、車のメンテナンスやトラブルの箇所を修理することなどもあり、競技者2人だけでは対応が難しい場面も出てきます。また、競技の時間が長いので食



写真ー5 スペシャルステージ走行中



写真ー6 スペシャルステージ走行中（車内）

事をする時間もあります。そこで数人の仲間に、車のメンテや食事の準備をするなどお互いが協力してチームで戦います。このようにチームで一つの目標に向かって力を合わせていくところもラリーの魅力です。

また、九州各地で競技が開催されるため各地域の美味しい物を食べられることや、仲間との他愛のない話、

色んな職種の仲間がいるので、ラリーや車という共通の話題をきっかけに、他業種の方と会話し交流の輪を広げられ、車以外のいろいろな話を聞けることも魅力です。

しかし、私もですが、結局は車バカの集まりなので最後は車の話になりますが…。

私はラリーに関わる人との繋がりによって、北海道や四国等へ遠征し、ラリーやダートトライアルに参戦する機会を頂いたり、このように人との繋がりも含めて魅力のあるモータースポーツがラリーです。

## 5. 仕事と趣味のバランス

私は、このラリーという趣味を持ち競技に参加する事は、気持ちの切り替えにおいて非常に上手くいっていると思います。仕事の事を忘れ趣味に没頭し、そして気持ちを切り替え仕事に取り組む、趣味が有るから頑張れる、仕事有るから趣味が出来ると思い、当たり前かもしれませんが、色んな仕事の局面にも真剣に対応できています。

趣味に没頭しているから仕事がおろそかになる、また仕事がうまくいっていないから趣味に逃げるということにならないようにしていきたいと思います。

## 6. おわりに

今回、このような機会を頂き、私の趣味について紹介させていただきました。

モータースポーツもコロナによって少なからず開催中止や延期が行われ十分な活動が出来ませんでした。

早くコロナが収束に向かい、以前のように開催や参戦を行えることを願います。

しかし、このコロナ禍の中で新しい発見もあり、今後の仕事の在り方についても考え直す良い機会となりました。これから先、何らかの趣味を持ち、仕事と趣味のバランスを取り生活するのも何か新しい発見があるのではと思います。もちろん家族の理解が得られる範囲で皆様も自分の時間を持ってみてはどうでしょうか？

この先、ラリー参戦がどれくらいできるのか分かりませんが、仕事と趣味のラリーを、気分転換というギアを使ってアクセル全開で走り続けたいと思います。



## とりとめのない本の話

株式会社日水コン／九州支所 平川正博



### 1. とりあえず

本を読むとは何を求めて読むのだろうか？また人それぞれ興味のあるもの、やりたいことなど全く異なるので、人に薦める本に定義はない。

また、良い本と悪い本との区別もむずかしく、やはり人それぞれで 価値観が違っていると推察される。

さらに一度、目を通してすぐ忘れてしまうため(私の場合)、本当に身についたのかどうか疑わしい。

そんな事を思いながら、本の話を書くという大胆なことを思いついたので、ご勘弁していただき、少しだけ、お付き合いをお願いしたいと思います。

本当に脈絡もなく、とりとめのない話なので恐縮しながら、なおかつ他人(先人)の言葉をお借りして、書き進めて参ります。ご容赦ください。

本は若い時から、読んでいこうと思っているが、最近ではもっぱら糸島から博多まで通う通勤時間帯(およそ40分)に読むことが多い。哲学書や科学など難しい本は苦手なので流行作家がほとんどで、読んでい最近の作家では「有川 ひろ」や「白石 一文」、「吉田 修一」、「池井戸 潤」、「宮部 みゆき」、「村上 春樹」などで、古い作家だと「池波 正太郎」、「山本 周五郎」、「藤沢 周平」、「司馬 遼太郎」など時代物が多い。また、シリーズものとして「畠山 健二」(本所おけら長屋)、「浅葉 なつ」(神様の御用人)、「上橋 菜穂子」(精霊の守り人など)などは欠かさず、文庫の新刊が出たら、買い求める。単行本は高いし、嵩張るので買ったことがないが、文庫本は2年くらい遅れるが、安いし、小さいので重宝している。

十代で読んで影響を受けた本としては、やはり一番に「司馬 遼太郎」の(竜馬がゆく)だろうか。本の中の一文中うろ覚えであるが

【事の成る ならぬはそれを言う人間による】

【衆人みな善をなさば我れ独り悪を為せ。天下のことみなしかり】

などかなり影響を受けて、このような人間になろうと思ったものである。

また、次にサン＝テグシュペリの(星の王子様)も全体的に感化された。

【さっきの秘密をいおうかね。なに、なんでもないことだよ。心でみなくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ】

など かすかにおぼえている。

十代で読んでもう一度、読み返したいと思っている本が「吉川 英治」(宮本 武蔵)や「倉田 百三」(愛と認識との出発)、「ヘルマン・ヘッセ」(デミアン)(車輪の下)、「柴田 翔」(されど われらが日々)、「坂口 安吾」(墮落論)、「マキャベリ」(君主論)などで他にもあると思われるが思い出せない。

詩集も「八木 重吉詩集」とか持っているが、めったに読まないかな。たまに思い出したときなどにめくるくらいか。

「吉野 弘 詩集」の中の(祝婚歌)は好きな詩である。

【二人が睦まじくいるために 愚かであるほうがいい 立派すぎないほうがいい 立派すぎることは 長持ちしないことだと気付いているほうがいい

完璧をめざさないほうがいい 完璧なんて不自然なことだと うそぶいているほうがいい

二人のうちどちらかがふざけているほうがいい ずっとこけているほうがいい

互いに非難することがあっても 非難できる資格が自分にあったかどうか あとで 疑わしくなるほうがいい 正しいことを言うときには 少しひかえめにするほうがいい

正しいことを言うときは相手を傷つけやすいものだと 気付いているほうがいい

立派でありたいとか 正しくありたいとかいう 無理な緊張には色目を使わず ゆったり ゆたかに 光を浴びているほうがいい

健康で 風に吹かれながら 生きていることのなつかしさに ふと 胸が熱くなる そんな日があってもいい そして なぜ 胸が熱くなるのか 黙っていても 二人にはわかるのであってほしい】

なんとなく年齢を重ねた今、しみじみ心に沁みる詩である。

「有川 ひろ」は以前、漢字で浩だったが、最近ではひらがなに改めている。

（図書館戦争）や自衛隊三部作の（塩の街、空の中、海の底）や（植物図鑑）（三匹のおっさん）などおもしろい。

特に好きなのが（阪急電車）で、短い区間の阪急今津線を舞台にして織りなす人間模様が個人的に秀逸と思う。本屋さんに「有川 ひろ」の新刊（文庫本で）が並ぶと必ず買ってしまう作家である。

「白石一文」はお父さんが作家の「白石 一郎」で九州出身ということもあり、（海狼伝）を読んでその人の息子であるとわかり、ほとんどの本を読んでいる。本のタイトルが長く、口語文をそのままタイトルにしているのが多い。

例えば

「もしも、私があなただったら」

「僕の中の壊れていない部分」

「この胸に深く突き刺さる矢を抜け」など。

現代の男女の心の奥深いところを書いており、精神的な世界を描き、いつも興味深く読んでいる。少しHな描写もあってご愛敬である。

「池井戸 潤」も面白く、テレビなどで（オレたちバブル入行組）や（下町ロケット）は有名であるが、半沢 直樹は私があまり知らない銀行を舞台にして、「やられたらやり返す」が有名になった。テレビも配役がピッタリとはまっていて、面白かったが、小説も引きこまれて一気に読んでしまいたいと思わせる作家だと思う。企業人としていい上司・同僚に恵まれればいいが、いやな上司だとこの先、大変な目に合うことや 出世するには派閥に入らなければ引き上げてもらえないなど、現実にもあるのだろうなと思いつつ、読んだものだ。

（下町ロケット）大企業と中小企業の戦いを手に汗を握る展開で人間模様が面白い小説だった。

シリーズで読んでいる「畠山 健二」の（本所おけら長屋）はとても面白い上に、人情深く 涙が自然と出てくる本である。通勤電車の中でも涙が出てきて、困るほどであり、映画の「男はつらいよ」のフーテンの寅さんと似ている。下町の長屋で万造と松吉が織りなす人情断片は漫画を読むより面白い。

「浅葉 なつ」の（神様の御用人）も面白い。普通の人には見えない 天眼をもった人がいて神様が見えており、古代のいろいろな神様が現代人と織りなす物語は良く考えられていると思う。古（いにしえ）の神々も現代では力が衰えており、人々が神社にお参りに行かなくなったことが原因らしい。神様が見える主人公が相談にのってやり、いろいろな悩みを地道に解決していく話で、特に「古事記」とか「日本書記」など興味のある人には最初の入り口として入りやすいのではと思う。

「池波 正太郎」の（鬼平犯科帳）も読む本がない時には、よく手に取る。物語が短編形式になっており、40分の通勤時間に区切りが良く、また ためになる。

長谷川 平蔵火付盗賊改方長官が現代企業にも通じる管理職の部下に対する接し方が感心させられる。

剣や腕も強いし、酒も好きで 頭も切れる上に 人の機微もわかり、このような上司になりたいものだと思う。

長官として現場にも出るが、厳しさとやさしさをもっており、部下との会話とか人との関りで、直感がすばらしく働き、若いころは無頼漢だったことが、火付盗賊改方にも生かされている。同じようにはいかないかもしれないが、中間管理職にはお薦めで、肩ひじ張らず気楽に読めるのがいいと感じる。

もちろん（剣客商売）や（仕掛人 藤枝 梅安）なども面白い。

「上橋 菜穂子」（精霊の守り人）や（鹿の王）・（獣の奏者）などもシリーズを読んでいる。新作が出たらすぐにでも買って読みたいと思う作家である。最初は名前がカタカナなので抵抗を感じるかもしれないが、読みこんでいくと気にならなくなり、物語に引き込まれていき、次の展開が気になる小説である。

「マキアヴェリ」（君主論）は社会人になってから読んだ本で、現実的な心構えとして、頭にインプットしておくべき言葉がちりばめられている。

【他の者を強力にする原因をこしらえる人は自滅する】

【わなを見抜くという点では、狐でなくてはならず、狼どもの どぎもを抜くという点では、ライオンでなければならぬ】

【人間は、恐れている者より、愛情を示してくれる者を容赦なく傷つけるのである】

など、結構過激なことを言っているが、一つの真理を思っていると思うのは私だけだろうか？

時代が1500年くらいの時期で、イタリアの君主国で官僚政治家をやっていた方であり、権謀術数の世界で生き残るために形成されたものといえる。現代社会には当てはまらないかも知れないが、生き馬の目を抜くといわれる世間での一つの参考にはなると思われる。私も企業戦士として働いた現役のころ、参考になった時もあった。

「坂口 安吾」（墮落論）も影響を受けたと記憶している。今手元に無く、内容を忘れてしまったが、逆説的な言葉で道徳や規定を否定し、既成概念をやぶり、自分らしく生きることを薦めている。

ネットで探すと

【人間の、また人性の正しい姿とは何ぞや。欲するところを素直に欲し、厭な物を厭だという、要はただそれだけのとだ。好きな女を好きだという、大義名分だの、不義は御法度だの、義理人情いうニセの着物を脱ぎさり

赤裸々（せきらら）な心になろう、この赤裸々な姿を突き止めみつめることが先ず人間の復活の第一条件だ。

そこから自我と、そして人性の、真実の誕生と、その発足が始められる】

などの言葉が出てきた。また今一度、読み返してみた

い。

## 2. 番外編

漫画といえば、ビッグコミックとその兄弟誌のオリジナルはほぼ創刊から欠かさず、購入しており50年くらいにはなる。2週間に一度の割合で出ており、420円でタバコ代より安いのでは思われる。

いつもお風呂に入り、読んでいるのでリラックス効果は抜群で、仕事の事は頭から、すぐ消えてしまう。

テレビドラマになった作品は数知れず、皆さんも聞いたことがある「浮浪雲」・「三丁目の夕日」・「ゴルゴ13」・「釣りバカ日誌」・「家裁の人」などなど 数え上げるとき

りがない。

漫画（コミック）とってバカにはいけないと思われるほど、私は勉強になっている。今はあまり見ないが各ページの下にトリビアがあり、豆知識には非常に役にたっていたが、今もあるのか確認していない。

## 3. 終わりに

水を扱う仕事について 40数年経ちました。いろいろな役所に行き、いろいろな方にもお会い出来たことに感謝し、人と人のつながりが大事だと改めて思います。

これからも業界が発展していくこと と 皆様個人が幸福になられるよう 祈念致します。